

## 専任教員教育研究業績

平成 29 年 4 月 5 日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
赤羽 尚美	あかはね なおみ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・ <u>講師</u> ・助教	男・ <u>女</u>

## 担 当 科 目 名

保育の心理学Ⅰ・保育の心理学Ⅱ、言葉指導法

## 学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
昭和 61 (1986) 年 4 月	名古屋女子大学 短期大学部 家政科 入学	
昭和 63 (1988) 年 3 月	名古屋女子大学 短期大学部 家政科 卒業	
平成 17 (2005) 年 4 月	日本女子大学 家政学部 通信教育課程 児童学科 二年次編入	
平成 20 (2008) 年 3 月	日本女子大学 家政学部 通信教育課程 児童学科 卒業	学士(家政学)
平成 21 (2009) 年 4 月	白百合女子大学大学院 文学研究科 発達心理学専攻 (修士課程) 入学	
平成 23 (2011) 年 3 月	白百合女子大学大学院 文学研究科 発達心理学専攻 (修士課程) 修了	修士(心理学)
平成 23 (2011) 年 4 月	フェリス女学院大学大学院 人文科学研究科 英文学専攻 博士後期 課程 入学	
平成 28 (2016) 年 3 月	フェリス女学院大学大学院 人文科学研究科 英文学専攻 博士後期 課程 修了	博士(文学)

## 教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容
白百合女子大学生涯発達 研究教育センター	平成 23 年 4 月～現在に 至る	研究員
フェリス女学院大学文学 部英語英米文学科	平成 23 年 4 月～平成 24 年 9 月	「英米文化専門ゼミ」「英語文化研究入門」ティーチングアシ スタント
医療法人誠和淡青会品川 診療内科・新橋診療内科	平成 23 年 10 月～平成 24 年 5 月	心理カウンセラー
新橋 14 クリニック	平成 24 年 5 月～平成 29 年 3 月	心理カウンセラー
東京都教育委員会	平成 25 年 4 月～現在に 至る	東京都公立学校スクールカウンセラー (特別職非常勤職員)
小田原短期大学	平成 29 年 4 月～現在に 至る	保育学科通信教育課程特任講師

## 所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
絵本学会	平成 22 年 8 月～現在	大会参加・口頭発表・ラウンドテーブル話題提供
日本イギリス児童文学会	平成 23 年 4 月～現在	大会参加・口頭発表・事務局事務員(平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月)
(社) 日本心理臨床学会	平成 24 年 4 月～現在	大会参加
(社) 日本臨床心理士会	平成 24 年 4 月～現在	各種研修受講・関連学会大会参加
(社) 日本発達心理学会	平成 25 年 4 月～現在	大会参加
International Research Society for Children's Literature (IRSCL)	平成 26 年 10 月～現在	大会参加・口頭発表

## 社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
横浜子育てサポートシス テム	平成 19 年 4 月～現在	提供会員

大田区立大森東小学校 学校保健委員会	平成 25 年 11 月～現在	学校保健員会講師		
大田区立新宿小学校 絵本学講習会	平成 26 年度～平成 27 年度	保護者対象学習会講師		
担当教科目に関する資格・免許等				
名 称	取得年月	取 得 機 関		
中学校教諭 2 級普通免許状 (家庭)	昭和 63 年 3 月	愛知県教育委員会 (昭 62 中 2 普 第 722 号)		
臨床心理士資格	平成 24 年 4 月	日本臨床心理士資格認定協会 登録番号 24236)		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文 等の名称	単 著 共 著 の 別	発行又は発 表の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要
(著書) 該当なし				
(学術論文) 1. 修士論文 家庭にお ける絵本の読み聞か せ—さまざまな場面 から子どもの発達へ の影響を考える	単著	平成 23 年 3 月	白百合女子大学大学院 文学研究科発達心理学 専攻	幼稚園および保育園在園児の保護者を対象とした「家庭にお ける読み聞かせ」「子どもの社会性の発達」「親子関係」に関 する質問紙調査を統計的手法によって分析し、絵本の読み聞 かせと子どもの社会的行動傾向、親子の信頼感との関連を検 証した。また、家庭で行われる読み聞かせ場面のビデオ観察 により、読み聞かせ中の親子の発話や動作から微視発生的な 発達的变化を分析し、家庭内の読み聞かせ活動の発展と養育 者の足場作りについて論じた。全 202 頁
2. 家庭における絵本 の読み聞かせ—親の 関わりと子どもの発 達への影響 (査読付)	単著	平成 23 年 12 月	生涯発達心理学研究第 3 号 (白百合女子大学 生涯発達研究教育セン ター紀要) pp.32-44.	修士論文に加筆修正を行い、絵本の読み聞かせを継続中の家 庭を対象として、読み聞かせ状況と子どもの社会性の発達、 および親子の信頼感との関連を分析した。その結果、発達早 期から行う読み聞かせが、母親の養育意欲や子どもへの温か い愛情を育んだり、父親が読み聞かせに参加することによっ て、子どもの協力的態度が促進されたりする可能性が示唆さ れた。
3. 絵本表現に見られ る育ち合う親子： little blue and yellow に読む子ども と大人の心	単著	平成 24 年 3 月	フェリス女学院大学大 学院人文科学研究科英 米文学英語学研究会 Ferris Research Papers (第 2 号) pp.45-65. "	Leo Lionni の絵本 <i>little blue and yellow</i> を取り上げ、幾何学 図形で表現された登場人物の動きや絵本の表現技法などか ら親子の心理を読み取り、親子がそれぞれに葛藤を抱えな がら、親が子どもを理解したり、子どもが自らの行動を反省 したりしながら育ち合うことを論じた。Lionni が孫たちとの 出来事を作品化して、50 歳を過ぎて絵本作家としての才能を 伸ばしていったように、親と子は日々触れ合いながら相互に 発達していくことを作品分析によって示唆した。
4. 笑われる大人： Beatrix Potter の描 くリアリティ	単著	平成 25 年 3 月	"フェリス女学院大学 大学院人文科学研究科 英米文学英語学研究会 Ferris Research Papers (第 3 号) pp.4-26.	Potter の絵本は、擬人化された動物たちが主人公となってい る。通常、子どもの本の主人公は子どもであることが多いが、 Potter の作品には主人公、脇役ともに大人も多く登場してい る。大人たちは時に皮肉を込めて描かれ、ユーモラスではあ るが、子どもの見本となるような理想像とは異なることもあ る。人の良い面と悪い面の両方があるままに描かれるリア リティを読み取り、笑われる大人が絵本に登場することの意 味を論じた。
5. 楽しさがつなぐ大 人・絵本・子ども	単著	平成 26 年 3 月	"フェリス女学院大学 大学院人文科学研究科 英米文学英語学研究会 Ferris Research Papers (第 4 号) pp.4-33.	絵本は、子どもが人生の最初に出会う本であり、幼児期には 大人から読んでもらう本である。幼い子どもの養育者は、子 どもが言葉を発し始める頃から、言葉や情緒の発達、子ども とのコミュニケーションなどを願って読み聞かせを始める ことが多いが、絵本は読み手にとっても育児の知恵や子ども の成長を学ぶための情報を豊富に備えている。本論では、養 育者の絵本観を分析し、大人も子どもに絵本を読みながら、

<p>6.博士論文 絵本と育児(育自):子どもと大人、それぞれの発達</p>	<p>単著</p>	<p>平成 28 年 3 月</p>	<p>フェリス女学院大学人文科学研究科 "</p>	<p>共に学び合う楽しさを知る必要を論じた。  本論文は、文学的研究の視点から絵本の特性を論じた上で、絵本を親子の共同行為の記号媒介物とみなす読み聞かせ活動の発達の効果を検証する心理学的アプローチを加え、絵本や読み聞かせの意義を考察している。また、読み聞かせと育児ストレスの関連も踏まえ、読み聞かせの負の側面を検証した点が新規といえる。絵本や読み聞かせが、大人と子どもが学び合う相互発達の場として機能するためには、養育者が感じる楽しさを軽視してはならず、大人の絵本に対する楽しみ方を充実させる支援が必要と考えられた。全 453 頁</p>
<p>(その他) &lt;特集記事&gt; 1.ポターと恋  2.育児支援を考える読者論としての絵本研究  &lt;研究ノート&gt; 1.モーリス・センダックのポター論検証:削除された 4 枚のイラストレーション(査読付)  &lt;口頭発表&gt; 1.モーリス・センダックのポター論検証:削除された 4 枚のイラストレーション  2.Beatrix Potter と Jane Austen : 不屈の女性たちの象牙の細工  3.子育て期の絵本—大人にとっての絵本と役割</p>	<p>単著  単著  共著  共  単  単</p>	<p>平成 24 年 12 月  平成 26 年 10 月  平成 25 年 3 月  平成 24 年 6 月 3 日  平成 24 年 11 月 24 日  平成 26 年 5 月 31 日</p>	<p>絵本 BOOKEND 2012 絵本学会機関誌編集委員会 pp.24-27.  絵本 BOOKEND 2014 絵本学会機関誌編集委員会 pp.26-29. "  絵本学 (絵本学会研究紀要第 15 号) pp.39-46.  絵本学会第 15 回研究大会 (熊本県山鹿市八千代座)  日本イギリス児童文学会第 41 回研究大会(東京都大東文化大学)  絵本学会第 17 回研究大会 (愛知県刈谷市総合文化センター)</p>	<p>2012 年は <i>The Tale of Peter Rabbit</i> の商業版出版 110 周年記念となり、絵本学会が刊行する『絵本 BOOKEND』では、Potter の特集が組まれた。「ポターと恋」では、100 年以上にわたって世界中の人々を魅了し続けている作品を創作する原動力を生んだ Norman Warne との恋と、生涯の伴侶として Potter を支えた William Heelis との恋について論じた。  絵本は学問の対象として、多くの研究領域から注目されている。発達心理学的な研究領域では、絵本は読み聞かせの手段として捉えられ、絵本を介したやりとりによる相互発達効果が検証されてきた。しかし、絵本は養育者にとって子どもに読んであげなくてはならない本として、発達効果を阻害するストレスを生む可能性もある。充実した育児支援のためには、絵本や読み聞かせの負の面に着目し、養育者の育児ストレスを視野に入れた読者論の必要を論じた。  藤本朝巳、永井雅子、赤羽尚美(執筆担当:はじめに、I、II、おわりに) 本研究ノートは、平成 23 年度絵本学会研究助成を受け、平成 24 年 6 月 3 日に、絵本学会第 15 回研究大会(於熊本県山鹿市八千代座)にて行った研究発表をまとめたものである。フェリス女学院大学図書館所蔵の貴重書 <i>The Tale of Peter Rabbit</i> の私家版には、ポターの絵本らしさを評価するセンダックによるエッセイが付いている。私家版から商業版にする際の変更の一部は、「ポターらしさが失われた」と言われるが、本研究では削除された 4 枚のイラストレーションを取り上げ、作品としての完成度と商品としての編集の面から、センダックの論を検証し、絵本の価値について考察した。  フェリス女学院大学図書館が所蔵する貴重書 <i>The Tale of Peter Rabbit</i> の私家版には、センダックによるエッセイが付いている。センダックが、商品化に伴って「ポターらしさが失われた」と批判した 4 枚のイラストレーションを取り上げ、作品としての完成度と商品としての編集の面から、センダックの批評を藤本朝巳教授と永井雅子氏と共同で検証した。  一人の作家が絵と文章を創作する現代絵本の創始者とも言われるビアトリクス・ポターはオースティンの作品を読み、登場人物と自己の経験とを重ねてみるなど、深くオースティンの小説に親しんでいた。ポターの作品に見られる緻密さ、嘘のない現実描写と、シェイクスピアに匹敵するといわれる際立った人間描写が評価されたオースティンのリアリティについて、絵本と小説という異なる領域でどのように表現され、両者がどのように似ているかを考察した。  絵本は子どもの成長に良い影響を与えることが周知となり、幼児期の子どもを持つ家庭の多くが読み聞かせを行っている。しかし、読み聞かせは相互発達を促す養育者と子どもの社会的相互行為という見方が容認されるようになり、読み手の親らしい態度や子どもへの理解を促す効果が期待できる。</p>

<p>4.TheDisappearance of Childhood and Reconsidering it in Japan</p>	<p>単</p>	<p>平成27年8月12日</p>	<p>The 22nd Biennial congress of IRSCS(International Research Society for Children's Literature) University of Worcester</p>	<p>養育者が子どもと絵本を読むことの意義を再考し、言葉を伝え、親子のやりとりを促す絵本が果たす役割を再考した。</p> <p>The purpose of this presentation is reconsidering what is necessary for children to secure their childhood by themselves. It is said that Japanese childhood has disappeared along with the popularization of TV, the disorganization of community and ubiquity of the early education. I will illustrate the Japanese childhood with an example which is Brave Story by Miyuki Miyabe, and suggest an understanding of true happiness of childhood with four keywords, family, courage, friendship, and growing.</p>
<p>&lt;ラウンドテーブル&gt;</p>	<p>共</p>	<p>平成28年5月</p>	<p>絵本学会第19回研究大会(京都女子大学)</p>	<p>赤羽尚美, 岩沢雄一郎, 藤本朝巳 ラウンドテーブルCプログラムにて、フェリス学院大学藤本教授のコーディネートにより、伊藤忠記念財団岩沢氏と、家庭や地域における子どもの豊かな成長や読書経験を支える読書推進活動について話題提供を行った。</p>
<p>その他 (表彰等)</p>			<p>なし</p>	